

I ブラジリトグモ

【国内における確認状況】

- ・国内で見つかったことはない。

【生態：生息地など】

- ・薄暗く高温で乾燥し、攪乱がない場所を好む。
- ・主に夜行性で、昆虫やその他の節足動物を捕食する。

【形態：大きさや特徴】

- ・成体雌は7～12mm（最大14mm）で雄は通常雌よりも小さい。
- ・背甲は薄黄色から赤褐色であり、バイオリンの形をした模様がある。
- ・3対（6個）の目が背甲の前縁にU字型に並んでいる。



“Recluse spider shot in Santa Catarina - Brazil” By Philipe de Liz Pereira



【原産地・分布】

- ・原産地はブラジル南東部

健康被害の具体例

- ・咬まれたときに一過性の刺すような痛みがある。
- ・**初期段階（刺咬後0～2時間）**：顕著でない水疱形成、他の咬傷に似ることが多い。
周囲に異常な浮腫と紅斑がほとんど診断できない程度に出現する。小型の水疱が形成される場合がある。
- ・**虚血段階（2～6時間後）**：最初の診断できる症状として咬傷部位の周囲に虚血域がみられる。
明らかに毒の作用である。中等度あるいは激しい痛みが始まる。
- ・**チアノーゼ段階（5～12時間後）**：虚血部は徐々に赤から青黒くなる。血管収縮の拡大と局所組織の酸素欠乏が伴う。この段階の初期には病変は咬傷部位の著しい酸素欠乏の進行拡大により無感覚になっている。刺咬部位の周囲に出血や紅斑を生ずる。全体に浮腫性となり、四肢の場合はしばしばリンパ管炎を起こす。
- ・**組織破壊段階（12時間以上）**：組織の酸素欠乏から局所組織の破壊と壊疽が進行する。
一般にこの段階では、病変部は無感覚である。

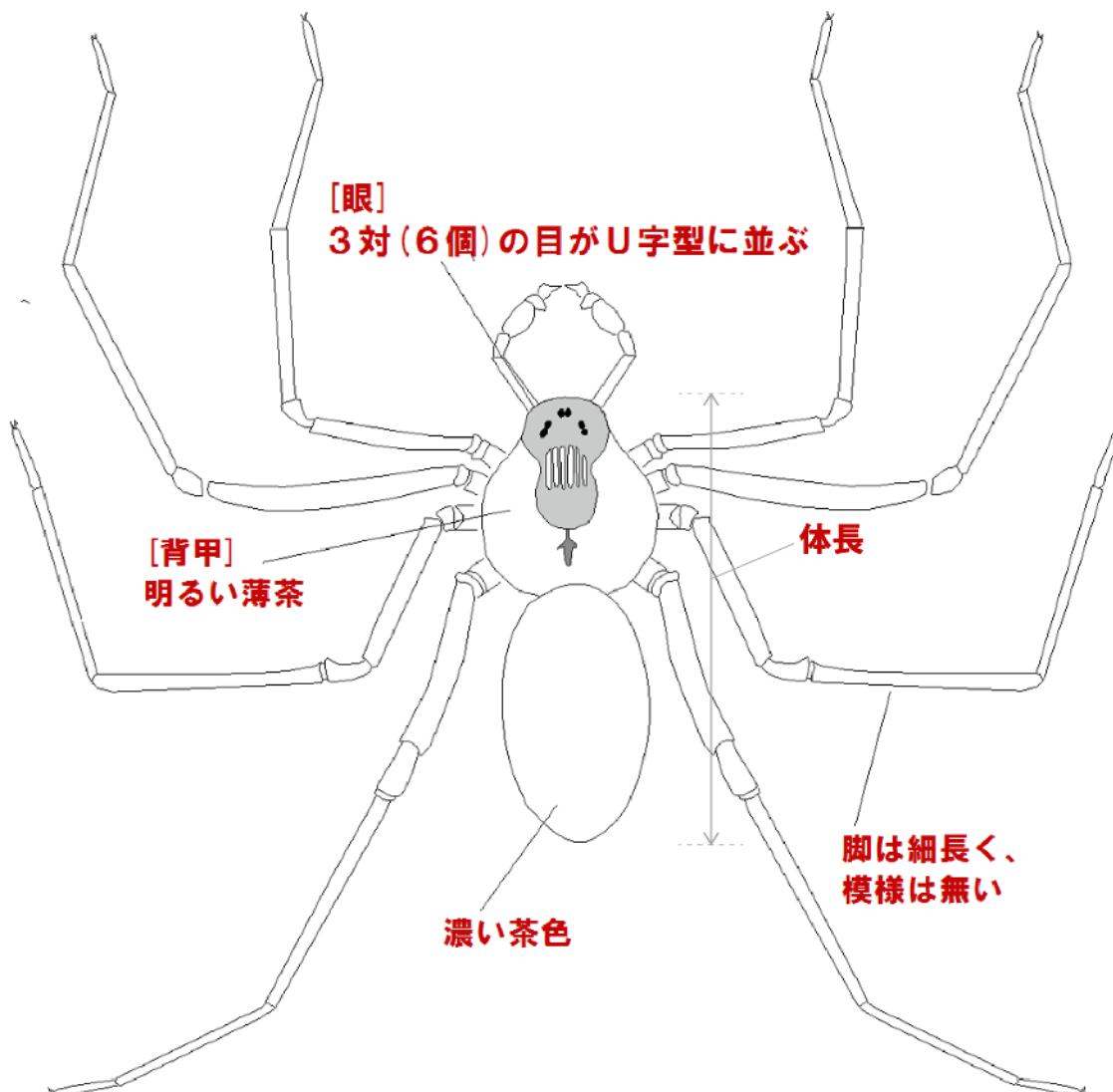
- ・ブラジル・サンパウロの病院の症例研究では、1985年～1996年の間にブラジリートグモによる刺咬症が28例があったが、死亡例は報告されていない。

被害を受けた場合の対処法

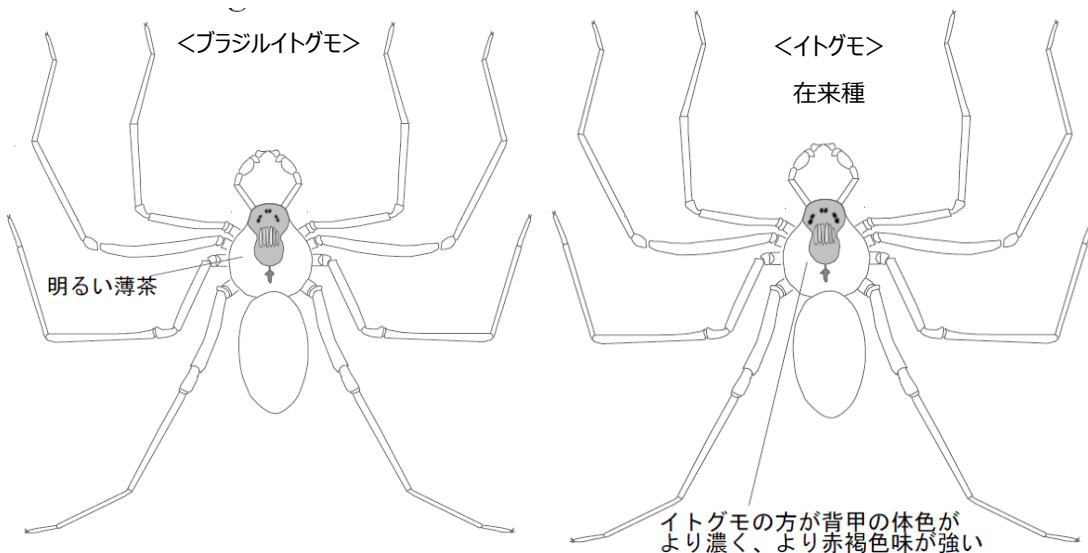
- ・医療機関を受診

特徴・間違えやすい類似種との識別点

【ブラジリートグモの特徴】



【間違えやすい類似種との識別点】



特定外来生物指定の他の *Loxosceles* 属 2 種も形態的に酷似しており、背甲の模様のパターンや体色に違いが認められるものの、種の判別には生殖器や触肢の形態から判断する必要がある。

【類似種の特徴】



["Female Emperor Scorpion" By Vijay Anand Ismavel](#)



類似種：イトグモ (*Loxosceles rufescens*)



イトグモ類と同じく、3 対(6 個)の目が U 字型に配列

["P1030458v1-cellar-spider" By Donald Hines](#)



イトグモ科と類似の特徴を持つ種 (1) ヤマシログモ科



イトグモ類と同じく、
バイオリン型の模様

“Platnickina tineta” By Phil



イトグモ科と類似の特徴を持つ種 (2) ヒメグモ科(写真はホクオウヒメグモ)

駆除方法

- ・クモの駆除には、有機リン系の殺虫剤が有効である。
- ・人家内ではナフタレンを家具の隙間や中に入れておくと効果的である。
- ・米国では室内に定着しているイトグモ類の駆除に粘着性のトラップが商品化されている。

[➡ 危険な外来生物 Web サイトへ](#)

この資料についてのお問い合わせは、下記までご連絡ください。

東京都環境局 自然環境部計画課 / TEL 03-5388-3548 FAX 03-5388-1379